

ふるさとの 其の29 誇り

眺望の地に王は眠る 県指定史跡「物見塚古墳」



出土した鉄剣と玉



古墳の様子

榊形西小学校のある標高約400m、500mを測る市之瀬台地。台地を縦断するように通る広域農道沿いにかわいらしい手描きの小さな案内板があります。昨年の榊形西小学校の卒業生たちが作ったもので、「物見塚古墳」と示されています。

今回はこの案内板に誘われて「物見塚古墳」を紹介したいと思います。

案内板どおりにまがるとそこは檜城跡といわれる一帯で、中世の石造物にかこまれます。途中畑の中に落ちていく土器のかげらに目を奪われながらもしばらく歩き進めると、左手に上ノ東古墳があらわれ、さらに進むと、細く急な下り坂となります。細い道の目の前がぱっと開けたとき、目の前には富士山そして甲府盆地が眺望でき、夜景も素敵な隠れたビュースポットなのです。そんな絶景の地に「物見塚古墳」があらわれるのです。

物見塚古墳は下市之瀬区に位置し、江戸時代より銭塚などと呼ばれ、その存在が知られていました。

過去には「振文鏡」とよばれる銅鏡や玉類、剣などが発見されたと伝わります。

昭和55・56年に確認調査が行われ、全長約46mを誇る前方後円墳であることや、墳丘の表面には石が敷かれていたこともわかりました。

度重なる盗掘を受けており、確認調査では埋葬主体部の施設は明らかにはなりませんでしたが、剣3点、直刀1点、玉類7点が発見されています。この時、時間的制約のために掘った土の全てを振るいにかけることができなかったため、23年の歳月を経て平成17・18年度に再び土を振るいにつけ、新たに玉類19点、鉄製品片14点などが発見されています。

古墳の形状、出土品などから4世紀末〜5世紀初頭のころの古墳で、釜無川以西地域では現存する古墳としては最古で最大、そして唯一の前方後円墳であることがわかりました。前方後円墳という古墳の種類からは、この地域が当時すでにヤマト政権のもとに組み込まれていたことがわかるのです。

古墳の眼下には当時の集落が広がって



上空より見た古墳



古墳からの眺め



榊形西小の児童による手描き説明板・案内板

おり、村人たちは王様に見守られていたのでしょう。また、甲府盆地をばさんだはるか東方には当時東日本最大の古墳である甲斐鏡子塚古墳を擁する東山古墳群に対峙しているのです。

この古墳は本市の古代のクニの様子を知る非常に貴重な存在なのです。

しかし、一部の土の崩落が進んでおり、平成16年度に県の補助を得て周縁に土のうを積むなどの一時的な応急措置を施しています。またここにも子供達が描いた説明板があり、未来へと伝えていきたいという子供たちの願いが刻み込まれています。

そのような子供たちの思いと、初冬の澄んだ空気のもと、王様の視線で美しい景色を眺め、古代のロマンに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

※前方後円墳…古墳の一形式。平面形が円形と方形の墳丘を組み合わせた鍵穴のような形状をしています。

※古墳…一般には墳丘を持つ古いお墓のことで、豪族や権力者の墓として3世紀後半から7世紀前半に築造されました。この時代を古墳時代と呼びます。 ※振文鏡(ねじもんきょう)…国内で製造された青銅鏡で、振れた線の文様が描かれていることからこの名前がついています。4世紀末〜5世紀頃の古墳から出土することが多いです。